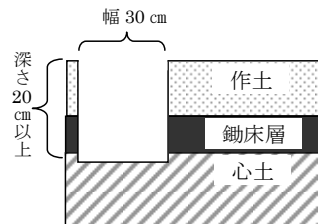


単収 200kg/10a 以上、大粒比率の向上、高品質大豆生産に向けて

「排水対策」「土づくり」「適正播種」で目標苗立数と初期生育を確保！！

1 排水対策

- ① 用水路や水口からの漏水を防止しましょう。
- ② ほ場が濡れているときに、幅 30cm、深さ 20cm 以上を目安に額縁排水溝を設置し、深く掘り下げた排水口に連結しましょう。



《額縁排水溝イメージ図》

2 土づくり

地力向上のため、堆肥等の有機物を積極的に施用しましょう。

- ① 耕起前に必ず **マグフミン(粒)** を 100kg/10a 施用し、**土壌 pH 6.0 ~ 6.5 を確保** しましょう。

《堆肥の施用量目安》

種類	10a 当たり施用量
牛ふん堆肥	1 ~ 2 t
発酵鶏ふん	100kg

3 病害虫防除

- ① 種子伝染性病害やフタスジヒメハムシ等の加害を防ぐため、必ず種子塗沫処理を行ってください。

薬剤名	処理法	対象病害虫等
クルーザーMAXX	種子 1 kg 当たり 8 ml 塗沫	紫斑病、茎疫病、タネバエ、ネキリムシ類、アブラムシ類、フタスジヒメハムシ、ハト（忌避）
キヒゲンR-2 フロアブル (病害虫発生が少ないほ場)	種子 1 kg 当たり 20 ml 塗沫	紫斑病、タネバエ、ハト（忌避）

4 播種作業

- ① 土壌が乾いた条件で、耕起、砕土・整地、播種、作溝の一連の作業は一日で行い、砕土率 60% 以上を確保しましょう（右写真参照）。
- ② 目標栽植本数を確保できるよう播種機の準備を事前に行いましょう。
- ③ 作業速度は **0.5m/秒程度の速さ(3連の播種機で 30aほ場を 70 分で播種する速度)** とし、急がず確実に種子を落とすようにしましょう。**播種深度は 3 cm 程度** を目安としましょう。
- ④ 除草剤散布は、播種・覆土直後、土が乾かないうちに行いましょう。

- 出芽・苗立ちが安定し、揃いも良くなる！
- 除草剤の効果も安定！！



《砕土率 60% 以上の土壌》

《播種時期別の大豆播種量(1株2粒播き・条間 80cm)》

品種	播種時期	栽植本数 (本/10a)	播種量:注) (kg/10a)
えんれいの そら	5月26日~6月上旬	14,000~16,000	5.6~6.4
	6月中旬	16,000~18,000	6.4~7.2
シュウレイ	5月26日~6月上旬	12,000~15,000	4.9~6.2
	6月中旬	15,000~18,000	6.2~7.4
オオツル	6月上旬	10,000~12,000	4.4~5.3
	6月中旬	12,000~14,000	5.3~6.2

《基肥量の目安》

肥料名 (N:P:K)	土壌条件	施用量 (kg/10a)	
		単作	麦跡
BB 基肥 084 (10:18:24)	砂壤~壤土	30~40	50~60
	埴壤土	20~30	40~50

※麦跡のN量は、それぞれ 2kg 多くする

《除草剤》（下表のいずれか）

除草剤名	散布量 (/10a)
トリアザイド粒剤 2.5	4 ~ 6 kg
ラサ-粒剤	4 ~ 8 kg

注) 大粒の百粒重:「えんれいのそら」35.8g、「シュウレイ」37.0g、「オオツル」40.0g 苗立率 90% の場合